

虐待の現場から

— 家族理解と援助について —

今年上半期に全国の警察が摘発した18歳未満の子どもへの虐待事件は376件。半期ごとの統計を取り始めた2000年以降で最多となり、また虐待の疑いがあるとして警察が児童相談所に通告した子どもの数も4187人増え1万7224人と過去最多となりました。

虐待を防止するために、子どもの命を守るために、引き続き学んでいくことは多いのではないのでしょうか。

本講演会では、長年子どもや虐待の起きた家庭の支援等を行っている川崎二三彦さんをお招きし、どうすれば適切な支援を行えるのか、地域で被害者やその家族を孤立させないために、連動・連携していくために何が出来るか考える機会とします。

日時 **10月27日(火)** **14:00~16:00**
(開場 13:30~)

場所 **国立劇場おきなわ 小劇場**

定員 **250人** 要予約・先着順
*定員に達しましたら、キャンセル待ちとさせていただきます。

お申し込み・お問い合わせ
NPO法人おきなわCAPセンター
電話: **070-6591-7159**
(平日9時~17時)

FAX: **098-862-1686**

メール: **2013stopca@gmail.com**

*FAX およびメールでお申し込みの場合

- ①参加希望講座名、②お名前(ふりがな)、
 - ③電話番号、④折り返しメールアドレスをお知らせください。
- *開催日前3日間は、電話のみで受付をします。

参加者へのお願い・ご案内

- ①お子様連れのご参加はご遠慮いただいております。また、託児の予定もありませんので、あらかじめご了承下さい。
- ②一般参加者による会場内での写真・ビデオ撮影・録音はご遠慮下さい。
- ③本講演会はマスコミによる撮影も予定されておりますので、あらかじめご了承下さい。



かわさき ふみひこ
講師 **川崎 二三彦**

■プロフィール
子どもの虹情報研修センター
センター長

京都大学文学部哲学科を卒業後、京都府の各児童相談所で心理判定(児童心理司)及び児童福祉司として約30年あまり相談業務に従事。平成19年4月から子どもの虹情報研修センター研究部長となり、平成27年4月から現職。

社会保障審議会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会委員長等を務める現在、全国児童相談研究会(児相研)代表委員、日本子ども虐待防止学会理事など。

■主な著書

- 『児童虐待—現場からの提言』
(岩波新書 2006年)
- 『子ども虐待ソーシャルワーク
— 転換点に立ち会う』
(明石市書店 2010年)

等多数 発表